



たんぽぽだより

2019
春号
vol.28

友の会会員の皆さまと記念館を結ぶ会報誌

糸井 梅

わたしを呼ぶとめづるのは
若木の糸梅であつた
あつてもかけるいふで
女に会つたようち
あつたものゝうたあげてきて
一花を口にいふのみ
わたしのうたといふこと



館長エッセイ

【第二十八回】

坂村真民の「箴言詩」は
自分への戒め

真民詩を読み解く ②7

自分の春を待ち焦がれる気持ちを、
たんぽぽの思いに託す「たんぽぽのうた」

真民詩とわたし

詩を読むと、先生の生の声が聞こえるんです

やまもと のりゆき
山本 教行 さん

記念館からのお知らせ

開館7周年記念特別展

「真民詩とともに生きてゆく

～坂村真民記念館7年の歩み～」

コーヒープレイク

さまざまな人との宝物のような出会いが
ボランティアガイドの醍醐味

【第二十八回】私はどう生きべきかを問いかけた詩

坂村真民の「箴言詩」は自分への戒め

坂村真民は、普通の人と同じように、いや、普通の人以上に悩み苦しみながら、いつも自分に向かって「この生き方でもいいのか」「まだまだいかん」と自問自答しながら生きていました。だからこそ生徒や周囲の人々が悩み苦しむのを見て、共に悩み苦しむ、一緒にその解決策を考え、最後まで寄り添うことを信条として生きてきたのです。

坂村真民にとっては、詩を作ることと生きることとは、同じものであり、「真の人間として生きるための生き方」を模索する中で詩が生まれてくるのです。真民は、そういう「坂村真民の生き方」を常に自分自身に向けて問いかけて、その答えを「自分への戒め」「箴言」として、多くの詩を残しています。

また、坂村真民は、42歳から96歳までの54年間に796冊の「思索ノート」を書き残していますが、この「思索ノ

ト」の中で真民は、毎日のように自分を戒め、自らを励まし奮い立たせる言葉を書いています。

これは、ノートを書き始めた40代から晩年の90代まで、変わらず一貫してほぼ毎日のノートに書かれています。

私はノートを読みながら、「どうして、ここまで自分に厳しく生きないといけないのか」と感じる事が度々ありました。

人生の最後まで、己を鍛え、修行を怠らず、「禅の修行僧」としての生き方を貫き通した坂村真民という一人の人間の生きざまがここに書き綴られているのです。

坂村真民の詩は、「君たちはどう生きるか」を問う詩ではなく、「私はどう生きるべきか」を問う詩であり、どの詩も「君たちや貴方たちへの詩」ではなく、「自分自身に向けた詩」であり、その

中心となるのが「自分への厳しい戒めの詩」なのです。坂村真民の詩とその生き方をより深く知るためには、こうした「自分への戒め、箴言の詩」を読み解くことが、必要となってくると思います。

そこで坂村真民記念館では、数多くの真民の箴言詩の中から、坂村真民がそれぞれの時代(年代)に、生きる苦しみとともに自分への「箴言」として書いた詩を選び出して、今年の6月から企画展として「坂村真民と箴言詩」を特集したいと考えています。

それぞれの時代の真民の「箴言の詩」をそれぞれの人が自分の今の年代に当てはめて読んでくだされば、これからの人生の戒め、道標として参考になるのではないかと思います。

どうぞ、皆さんが「今を生きる」その時に、かつて坂村真民もこんなに自分を厳しく戒め、生きていたことを、知

六魚庵箴言

その一

狭くともいい
一すじであれ
どこまでも揺りさげてゆけ
いつも澄んで
天の一角を見つめろ

その二

貪しくとも
心はつゆに
高貴であれ
一輪の花にも
季節の心を知り
一片の雲にも
無辺の詩を抱き
一畝の米にも
学問の恩を思い
一塊の土にも
大地の愛を感じよう

ってください。そのことによって、真民は「今この時を」皆さんと共に歩んでいるのです。

また、坂村真民は、自分を厳しく戒めても、いつも前向きに生きることを考え、生きる希望を持ち続けて生きてきました。そういう「自らを励ます詩」も併せてご紹介したいと思っています。どうぞご期待ください。

詩を読むと、先生の生の声が聞こえるんです

やまもと のりゆき
山本 教行 さん(70歳)

鳥取県岩美町で「クラフト館 岩井窯」を営む陶芸家の山本教行さんは、暮らしに根ざした温かみのある作風で知られる。真民さんとの生涯の縁は、数々の偶然が重なって結ばれた。山本さんを「きょうぎょうさん」と呼び親しんだ師・真民さんとの対話は今も続く。



◆奇跡的な対面

高校3年生の夏休みに鳥根県の出西窯で陶芸の勉強をしていた時、たまたま工房で「詩国」をみつけました。「ねがい」の詩に衝撃を覚え、すぐに真民先生に手紙を書きました。

大学紛争などで社会が混々としていた時代、進むべき道を模索していた私は、高校を卒業した秋、連絡もせず松山にやってきました。

「詩国」に書かれた住所を訪ねると、数日前に引越されたとのこと。移動先が分からず松山市駅のベンチで夕方暮れていた私に、通りがかりの女性が生をかけてくれました。驚いたことに、真民ファンの方で、先生の勤務先



鳥取県岩美町の工房「クラフト館 岩井窯」。
真言碑と「ねがい」の詩碑が建つ

である新田高校に電話をしてくださり、駆けつけてくれた先生と、感謝の対面。早世した茜さんの供養にと持参した、自作のお地藏さんをタンポポ堂でお供えしました。

◆「何もかもお見通し」

私の名は浄土真宗の信者だった母が付けたのですが、親鸞最後の著「教行信証」でした。ですので、真民先生は最初から「きょうぎょうさん」でした。

幸運な初対面以後、何度も先生を訪ねました。23歳で独立したのですが、2回続けて登り窯での焼成に失敗。借金もあり、追い詰められた思いで先生を訪ねたのです。失敗のことは口にしなかったのですが、帰りのフェリー乗り場で、「何かの足しに」と、厚みのある祝儀袋を渡されました。先生は何もかもお見通しだったんです。この時ほど「慈悲」が身に染みたことはありません。

◆永遠の存在に

亡くなる数日前、先生はすでに目が

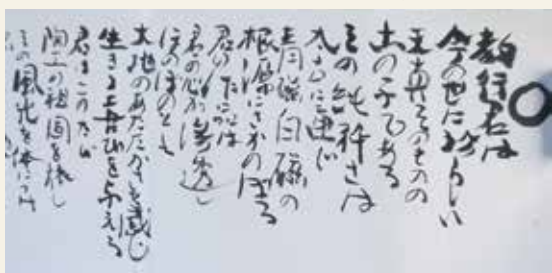


お地藏さんは今もタンポポ堂にお供えされている

見えなくなっていたのですが、私が手を握ると、「きょうぎょうさんやな。赤い服着とつたな」と、初対面のことを思い出してくださいました。

先生がお元気な頃から、「先生がいなくなったらどうしよう」「自分も後を追おう」とまで思い詰めていたんです。ところが、逝去の報に触れると、それまでの気持ちとは裏腹に、透き通ったような、不思議な感覚に包まれました。

先生は、亡くなられたことで永遠になりました。今でも詩を読むと、先生の生の声が聞こえるんです。



真民さんから独立を祝って贈られた詩

「真民詩とともに生きてゆく ～坂村真民記念館7年の歩み～」

期間 平成31年 3月2日(土)～6月16日(日)

開催趣旨

坂村真民の詩は、真民自身が、つらいことや、悲しいことをいっぱい経験して、また、家族とともに、うれしいことや、幸せに生きる喜びを感じて生きる中で、さらに人間として如何に生きるかを自らに問い、その答えを考える中で生まれてきたものです。真民詩を読んで、真民詩が好きになる人は、こういう真民の経験を自分の人生に重ねて、つらい時も、うれしい時も、悲しい時も、幸せな時も、いつも真民詩に見守られ、励まされているのだと思います。

坂村真民記念館は、そういう真民詩を大切に、これまで来館された多くの方々とともに歩み、ともに生きてゆくことを願っています。今回の特別展は、これまで7年間に来館された方々が「アンケート」に書かれたそれぞれの思いを集約するとともに、坂村真民記念館のこれまでの歩みを振り返り、改めて記念館の歩むべき道を確認することとしました。



記念講演

～開館7周年記念特別展 記念講演～ 「真民詩とともに生きてゆく」

●日時 2019年3月2日(土) 11:00～12:00

●場所 砥部町商工会館 大会議室

入場無料

●講師 前田 修身 氏

[プロフィール]

愛媛県に生まれる。吉田高校在学中に真民と出会い、大乘寺での坐禅会にも参加。真民詩のファンとなる。

苦学して吉田高校を卒業後、法務事務官として外国人の帰化申請を担当し、その後、行政書士として独立し、これまでに

13,000名以上の帰化を実現して多くの人に感謝されている。その中には横浜中華街の家族・従業員の約半数、プロ野球選手、歌手、俳優、政治家、大学教授などが含まれている。



さまざまな人との宝物のような出会いが、 ボランティアガイドの醍醐味

坂村真民記念館では、来館者の要望に応じて、ボランティアガイドの人たちが展示物の解説を行っています。今回、ガイド歴5年という森永弘子さん(76歳)にお話をうかがいました。



生き方に感銘を覚えたと言います。
のち、松山に居を構えた森永さんは、真民記念館のボランティアガイド募集記事を目にしました。年齢を考えて躊躇したもの、思い切つて応募。現在は、月に3回程度、活動を行っています。

宇和島出身の森永さんは、宇和島東高校で真民さんに教わりました。しかし、わかりやすく楽しい授業をしてくださった坂村昂先生が詩人・坂村真民とは夢にも思っていなかったそうです。

ところが、数十年後にご主人の転勤で移った伊予三島の読書会で、偶然、

恩師が詩人だと知りました。思わず、「私、坂村先生に習いました！」と声をあげ、周りの人から羨ましがられた

そうです。それからというものの、むさぼるように真民さんの詩を読み、深い家族愛に満ち、平和への強い思いや無欲な

森永さんは毎回、早めに記念館に到着して、「先生の詩が好きなので、少しでも覚えられるように」と、展示された詩を声に出して読みながら一周します。来館者には最初に「どちらからいらつしゃいましたか？」と声をかけ、相手の意向を確かめたうえで、展示物の解説を始めます。「真民詩の世界をじっくり味わいたい方への解説は控え、静かに観ていただくよう心掛けています」とも。

洗練と明るく、笑顔が素敵な森永さん。その人柄から、時には相談事をもちかけられることも。そんなときは

聞き役に徹するとのこと。

印象に残っているのは、数年前の企画展「家族の絆」で、「野いばらの花咲く道に」や「昼の月」などの詩の前で涙を流す方がとても多かったこと。身につまされたとき、当時を振り返りました。

記念館での様々な人との出会いがなにより「宝物」という森永さん。「ここにいると夢心地で、すごく幸せ。体の続く限りボランティアガイドを続けま



す」と力強く宣言。記念館はこうした人たちによっても支えられていて感じました。
(タンポポだより 編集部・太田)

坂村真民記念館ボランティアガイドについて

坂村真民記念館では現在、30名ほどのボランティアガイドが活動を行っています。原則として、開館日はボランティアガイドが最低1名は待機し、団体での来館者が予定される際は、複数人で対応しています。

ボランティアガイドの募集は毎年行なわれ、希望者は秋に実施される養成講座(全9回)を受講。修了者には修了証書が授与され、翌年1月からボランティア活動に参加できます。

また、最新情報などをボランティアガイド間で共有するため、2〜3カ月おきに継続研修(1日)も実施されています。

野いばらの花咲く道に

母を思う

かわるがわる

かついでいった

母のひつぎの

とわのわかれの

ふるさとの

山なかの

道を思う

苦難の一生を

慰めたたえ

はなむけの花束と

咲いてくれた

野いばらの香りをかいで

ははそはの母を思う



経営理念

最大の会社より最良の会社
人さまに喜んで頂く仕事と
自分づくりをする



[パチンコ店経営]

株式会社 宣翔物産

〒812-0857 福岡市博多区西月隈3-6-17 Tel 092-475-1151

[関連グループ会社]

株式会社 クリオ

ホテルクリオコート博多
〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街5-3 Tel 092-472-1111



『木は氣なり』

百年の木には百年の氣が宿り

千年の木には千年の氣が宿る

鳩寿四 真民詩

南木曾木材産業株式会社

〒399-5302 長野県木曾郡南木曾町吾妻1187 代表取締役 柴原 薫

Tel 0264-57-4000 FAX 0264-57-2006 <http://www.nagiso.co.jp> メール kao@nagiso.co.jp

砥部の地で、医療、看護、介護の三位一体を実現する砥部病院



介護付有料老人ホーム To-be

78居室/20㎡~24㎡(1F&2F)



住宅型有料老人ホーム
モンレーヴ砥部

18居室/2LDK 40㎡~90㎡(3F)

伊予郡砥部町麻生51-1(砥部病院横) TEL.089-969-0085 砥部病院ケアサービス株式会社

サンマーク出版 坂村真民の本

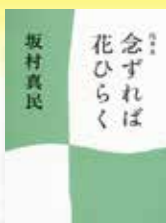
詩墨集
筆の詩墨の花



●定価=本体 3500円+税

坂村真民記念館
所蔵の作品を満載!

随筆集
念ずれば花ひらく



●定価=本体 1800円+税

初めての
随筆集を復刻!



10万部突破の
超ロングセラー!

詩集
念ずれば花ひらく



詩集●定価=本体各1000円+税

サンマーク出版

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-16-11
TEL 03 (5272) 3166 FAX 03 (5272) 3167
<http://www.sunmark.co.jp>

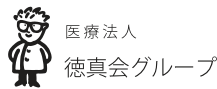
いま届けたい、生き方の道しるべ

詩集二度とない人生だから



詩集 宇宙のまなざし





医療は 人なり

徳真会グループの想い

徳真会グループは、1981年新潟県

の旧新潟市という地方の小さな町より始まりました。ユニット3台、スタッフ6名といったどこにでもある様な歯科医院からスタートし、以来38年間、常に患者さま本意の歯科医療のあり方を追求し続けています。また、国会依存度の低い自立した組織運営を模索し、「世界が舞台」という意識で組織創りを行ってきました。

現在、年間90万人の患者さまにご来院頂く、世界最大級の歯科医療グループとなつていますが、時代先駆の組織創りへの挑戦はまだまだ続きます。



新潟、宮城、東京、大阪、福岡に32医院。
詳しくはホームページをご覧ください。

徳真会グループ

検索



www.tokushinkai.or.jp

坂村真民記念館友の会 会員募集中

坂村真民記念館友の会は、会員の皆様と記念館との交流を図り、記念館を共に支え、育てていくことを目的とした会です。入会された方には会報と、真民グッズなどの記念品を贈呈します。

パスポート会員 年会費2000円	特典 会員証で入館無料1人 ほか
一般会員 年会費5000円	特典 会員証で入館無料1人 ほか
特別会員 年会費10,000円	特典 会員証で入館無料2人 ほか
法人会員 年会費10,000円	特典 会員証で入館無料2人、 観覧券10枚贈呈 ほか

詳しくはホームページをご覧ください

坂村真民記念館 友の会

検索

〈編集後記〉

開館7周年記念特別展「真民詩とともに生きてゆく〜坂村真民記念館7年の歩み〜」は、つらい時も、苦しい時も、うれしい時も、いつも真民詩を拠り所に生きてきた読者の皆様と、これからも共に歩いてゆくことを願った記念館の想いを込めた展示となっています。どうぞ、坂村真民に会いに記念館に来てください。お知り合いの方を誘って一緒に来てください。皆様のご来館を心からお待ちしております。(西)

タンポポだより vol.28 春号

平成31年3月1日発行 表紙写真：西澤孝一

発行元／坂村真民記念館友の会事務局
〒791-2132 伊予郡砥部町大南705 坂村真民記念館内
TEL089-969-3643 FAX089-969-3644

〔坂村真民記念館〕

開館時間／9～17時(入館は16時30分まで)

休館日／月曜(月曜が祝日の場合は翌日)、12月29日～1月1日

入館料／65歳以上300円、一般400円、高校生・大学生300円、
小・中学生200円 ※15人以上の団体は割引あり